

東洋紡株式会社 2024 年度 第 1 四半期決算説明会 質疑応答要旨

日時：2024 年 8 月 9 日（金） 9:00～9:45

場所：WEB 形式

説明者：執行役員 CFO 管理部門統括 斧 泰三

本資料中の将来の業績見通し等に関する記述は、現時点における情報に基づいており、当社として保証するものではありません。実際の業績等は、さまざまな要因により異なる可能性があります。

Q：「コスモシャイン SRF（以下、SRF）」の 1Q の実績、通期の見通しは？

A：1Q は前年同期比で数%の増収。通期では前年度に対し横這いの見通し（売上高ベース）。

Q：セラミックコンデンサ用離型フィルム（以下、MLCC）の 1Q の実績、通期の見通しは？

A：1Q は前年同期比で約 15%の増収。通期では前年度比約 20%増収の見通し（売上高ベース）。

Q：工業用フィルムの価格転嫁は進んでいるのか？原燃料価格以外のコスト上昇分についても値上げを していくのか？

A：工業用フィルムは、従来、高付加価値を前提とした価格設定であったため、原燃料価格の上昇を理由とした値上げは難しかったが、SRF、MLCC を中心に製品価格改定を進めている。今後、物流費等も含め値上げを進めていく。

Q：包装用フィルムについて、海外品の流入は進行しているのか？

A：海外品の流入はあるが、さらに増えているということはなく、一定の割合で残っている状況。

Q：ライフサイエンスは対前年同期比で 1Q が減益だがその原因は？また、1Q に対し 2Q 以降改善する のか？

A：1Q は、新設備の償却費や立上げ費用等が発生したため。2Q 以降は、新設備の寄与等もあり改善する見込み。

Q：三菱商事(株)との合併会社 東洋紡エムシー(株)が発足し 1 年が経過したが、シナジー効果は発現して いるのか？

A：三菱商事(株)のネットワークを活用したアプローチが確実に増えてきている。早期に、具体的な収益への効果を実現できるよう、協業を加速させていきたい。

Q：環境・機能材の 1Q 営業利益は、23 年度下期と比較して進捗が遅れているように見える。その理由 は？24 年度下期に挽回できるのか？

A：1Q は、環境ソリューションの出荷タイミング等により 23 年度下期に比べ販売が減少した。加えて、岩国事業所の重合新設備の費用負担等の影響もあった。通期見通しは、自動車向けや電子材料向けの拡販に加え、構造改善を進めている不織布マテリアルの収益性改善により、挽回できると見ている。

Q：エアバッグ用基布は、黒字転換したのか？

A：収益性は改善したが、黒字化には至っていない。背景として、タイの原糸工場生産品の認証が遅れている。23年度末の認証取得、販売開始を予定していたが、24年度下期にずれ込む見通し。

Q：衣料繊維について、1Qは需要が弱いと見ているが、収益性は改善したのか？その要因は？通期でも黒字確保できるのか？

A：本来、衣料繊維は下期型だが、1Qは国内生産拠点の集約などの事業構造改革に加え、主力の中東向け特化生地の販売増、および円安効果で収益が改善した。通期でも黒字の見通し。

Q：通期の増減分析の見通しにおいて、数量因を当初見通しから上方修正しているが、どの事業が増える見込みか？

A：足元の需要動向を勘案のうえ、フィルム事業を中心に上方修正している。

以上